

感染症に気をつけよう！



平成25年
【10月号】



横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
腸管出血性 大腸菌感染症	 流行	 横ばい	8月の報告数は過去5年間の平均を超えましたが、9月はこの平均と同程度です。例年これからの季節も流行するので、 食品の加熱・手洗いを十分に 行い予防しましょう。【9月号】
てあしくちびょう 手足口病	 やや流行	 横ばい	市全体では流行のピークは過ぎましたが、区によってはまだ報告が多い状況が続いています。乳幼児では、 おしめを替えた際もしっかり手を洗 いましょう。【8月号】



今、気をつけたい感染症 RS ウイルス感染症

市全体で報告数がやや増加傾向にあります。昔から、**冬場の風邪のひとつ**として知られている**感染症**です。

小さな子供では、**鼻水から始まり、発熱・咳が続きます**。ほとんどは1~2週間程度で治ってきますが、**乳幼児や免疫力が弱まっている人では重症化しやすい**です。入院が必要になる場合もあり、注意が必要です。また、一生の間に何回もかかります。

感染の仕方は、他の多くの風邪と同様です。患者の咳で生じた飛沫(しぶき)を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介した接触で、**RS(アールエス)ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着することで感染**します。

そのため自分が感染しないためにも、他の人を感染させないためにも、**予防には「正しい手洗い」が最も大切**です。



横浜市衛生研究所 **感染症**・疫学情報課
【横浜市**感染症**情報センター】